# 二〇一六年　八月

## 「今月の言葉」と「今月の聖語（せいご）」についての紹介

### 今月の言葉

すべての者は暴力におびえる。すべての生きものにとって生命は愛おしい。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。

### 『ダンマパダ』

筆者ゆかりの寺院には鐘（かね）があります。その鐘には小さい穴が四つあります。戦時中兵器をつくるために強制的に持って行かれ、金属の検査をするために開けられたそうです。ところが、兵器に作り替えられる前に戦争が終わり、鐘はそのまま元あったお寺に戻されました。

戦後、毎年終戦記念日に「平和の鐘」として、その鐘は人々につかれます。穴のせいで本来の音色とは異なるでしょう。しかし人を殺（あや）める兵器にならなかったこの鐘は「殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」と、今度は「平和の音」を奏でているように思われます。

今月の言葉は、釈尊の言葉です。「己が身にひきくらべて」というのは、「自分の身に置き換えてみて」という意味です。人間のみならず、すべての者は暴力におびえ、命は愛おしい。だから、自分が相手の立場に立って考えてみよ。殺してはいけないし、殺さしめてはならない。そのように受け取ることができます。

今月、八月一五日の終戦記念日に、釈尊の平和のメッセージに耳を傾けましょう。

### 今月の聖語

兵戈無用（ひょうがむよう）

### 『仏説無量寿経』（ぶっせつむりょうじゅきょう）

この言葉は釈尊が示されたもので、『仏説無量寿経』というお経に出てくる言葉です。

その意味は、この言葉が使われる前後の文脈を踏まえると、仏のみ教えが広まるところには、「兵」（＝武力）や「戈」（＝兵器）は「無用」（＝不要）であるということです。つまり、仏のみ教えによって、平和が実現すると述べられているのです。

今月の聖語と合わせて味わうと、人を殺めるための武力や兵器という暴力によって、平和が実現することはない、ということです。仏の教えによってこそ、心の平安が育（はぐく）まれ、ひいては人類の平和が実現することと願ってやみません。

宗教教育係